

東照公（家康）の遺訓

人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし、急ぐべからず。

不自由を常と思えば不足なし。

心に望みおこらば困窮したるときを思い出すべし。

堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思え。

勝つことばかり知りて、負くること知らざれば害その身にいたる。

おのれを責めて人をせむるな。

及ばざるは過ぎたるより勝れり。

人の一生というものは、重い荷を背負って遠い道を行くようなものだ、急いではいけない。

不自由当たり前と考えれば、不満は生じない。

心に欲が起きたときには、苦しかった時を思い出すことだ。

がまんすることが無事に長く安らかでいられる基礎で、「怒り」は敵と思いなさい。

勝つことばかり知って、負けを知らないことは危険である。

自分の行動について反省し、人の責任を攻めてはいけない。

足りないほうが、やり過ぎてしまっているよりは優れている。

9月校内実力テストの準備を始めよう！私学入試本番と思え！！
夏の勉強を充実させるために（5/5）

本気の夏休みを！ まとめ

本当にくだいですが・・・

- 1) 6月学力診断テストのやり直しをしろ！！ 1学期の期末テストのやり直しをしろ！！
- 2) わからなかった箇所、とけなかった箇所を「わかる人に、自分が納得し、わかるまで教えてもらえ」これが、学習の特効薬だ！！
- 3) じゃまくさい、恥ずかしい、なんとなく面倒・・・それではあかん！
心を入れかえ、毎回理解できない箇所を先生の所まで質問に来る行動が身に付けば、習慣が変わり、人格が変わり、人生が変わる！！
- 4) 9月・11月校内実力テストは、私学入試本番と心得よ！！
- 5) 宿題は早急に完璧に終わらせ、未提出のないように（夏休み課題一覧表の確認を）
- 6) 自分の未来を！将来を！考え、自己を見つめよ！！

◆NHKの大河ドラマ「青天を衝け」を観ていると、主人公の渋沢栄一と徳川慶喜が、左記の家康の遺訓を声をそろえて暗唱するシーンがあった。＜進路だより No026 も参照＞

◆「及ばざるは過ぎたるより勝れり」は、論語の「過ぎたるは猶及ばざるが如し」を、家康なりに解釈した言葉だといわれているようだ。

◆論語の方は、「度が過ぎることは足りないことと同じくらいよくないこと」といった意味だそうだが、家康は「足りないことは度が過ぎるよりも優れている」と解釈を変えている。

◆その理由は、「足りていない」と思うことで、もっと成長しなければならないというモチベーションが生まれ、常に緊張感を持って様々なことに取り組めるからだの家康は、考えたかもしれないネ。また、どんな時にも気を抜かず、自分のする事は、まだまだ及ばない事として、何事にも励んでいかなければいけないという自戒の意味もあったかもネ。

◆話が変わるが「無知の知」という言葉もある。哲学の父とも呼ばれるソクラテスは「無知の知」という考え方を基本とした。文字通りの意味は「無知であることを知っていること」が重要であり、「自分がいかにわかっていないかを自覚せよ」ということだ。言い換えると「知らないこと」よりも「知らないことを知らないこと」の方が罪深いということだ。

さあ！夏休み勉強に励め！！